交通バリアフリー教室の開催状況（令和２年度）

（１）趣旨・目的

高齢者や障害者などの自立と社会参加の要請へ適切に対応し、高齢者や障害者などが公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、社会全体での施設整備（ハード面の施策）に加え、実際に高齢者や障害者への手助けをしやすい環境づくり（ソフト面の施策）を進めることも必要です。

このソフト面の施策のひとつとして「交通バリアフリー教室」の実施が挙げられます。これにご参加いただくことにより、国民一人ひとりが、高齢者や障害者などの実生活での困難な体験を傾聴するとともに、これらの方々に対する介助を体験し、交通バリアフリーについて理解を深め、福祉・ボランティアに関する意識を醸成して、誰もが高齢者や障害者などに対して自然に快く手助けできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指します。

（２）交通バリアフリー教室の実施状況

中部運輸局管内における「交通バリアフリー教室」の開催実績は、平成１４年度から令和元年度までの合計で 261 回、20,300 名余りの方にご参加いただき、「心のバリアフリー」の普及促進に向けた啓発活動を行いました。

年　　度	開催回数	参 加 人 数	年　　度	開催回数	参 加 人 数
平成 14 年度	2 回	62 人	平成 23 年度	29 回	3,272 人
平成 15 年度	3 回	101 人	平成 24 年度	21 回	1,474 人
平成 16 年度	4 回	226 人	平成 25 年度	19 回	1,414 人
平成 17 年度	8 回	291 人	平成 26 年度	14 回	1,707 人
平成 18 年度	19 回	1,139 人	平成 27 年度	11 回	987 人
平成 19 年度	20 回	1,201 人	平成 28 年度	10 回	1,270 人
平成 20 年度	23 回	1,892 人	平成 29 年度	7 回	652 人
平成 21 年度	18 回	1,252 人	平成 30 年度	15 回	723 人
平成 22 年度	29 回	1,976 人	令和元年度	9 回	718 人

令和２年度はコロナ禍により、実施の抑制を求められましたので、静岡県三島市でのみ開催いたしました。

（３）実施概要

中部運輸局管内において令和２年度に実施した「バリアフリー教室」をご紹介いたします。

開催日程　：　令和２年１０月２８日（水）
開催場所　：　三島市立南小学校・校舎内及び体育館等
主　　催　：　静岡運輸支局
　　三島市
　　社会福祉法人 三島市社会福祉協議会
協　　力　：　三島市身体障害者福祉会
　　株式会社 東海バスオレンジシャトル
参 加 者　：　小学校４年生　８９名

視覚障がい者の方に講話をいただいた後、各グループに分かれて、車いす体験（ノンステップバス乗降体験含む）、バリアフリークイズ、アイマスク体験等に取り組みました。

【講話】

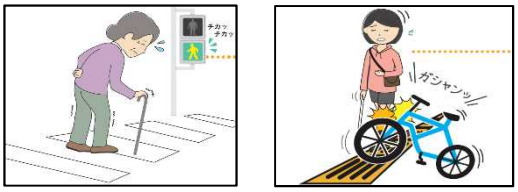
視覚障がい者の杉山さんの講話では、視覚障がい者は目で情報を得られない代わりに音や感触（点字）などから情報を得ていることや、街中で困っている視覚障がい者を見かけたら「お手伝いできることはありますか。」と声をかけてほしいことや、「盲導犬に声を掛けるなとの惑わす行為はやめてほしい」ことなどをお話ししていただき、生徒の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

【車いす体験】

車いす体験では、株式会社東海バスからスロープのついたタイプの中型バスをお借りして、車いすの介助体験や車いすに乗ったままバスに乗車する体験をしました。スロープがあるといっても、車いすの介助は思った以上に力がいるので苦労している生徒もいましたが、この体験により、車両のバリアフリー化の必要性について理解を深めてもらったことと思います。

【バリアフリークイズ】

バリアフリークイズでは、いくつかのイラストを用意し、誰が何に困っているか、困っている人に何ができるかを考えてもらいました。いろいろな答えを積極的に出しあっていました。



バリアフリークイズのイラストの例

最後に、３人の生徒から今回のバリアフリー教室で学んだことの発表がありました。今まで知らなかったことや体験して初めて分かったことの発表があり、また「街中で困っている障がいのある方を見かけたら、声をかけたい。」といった声もありました。

新学習指導要領に基づき、小学校等で「心のバリアフリー」教育の実施が始まっていますので、今後も自治体や社会福祉協議会、事業者との連携を図りながら、「心のバリアフリー」啓発の取り組みを継続していく必要があると考えています。